

ホーム名：グループホームびろうじゅ高倉					
自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念にあるように個々の生活歴を大切にしながら、馴染みのある生活環境の中で生活のあらゆる場面でご本人の生活力に注視しながら自信の回復に努めるようサポートを行っています	管理者や職員は本ホームの基本姿勢である入居者一人ひとりに合った支援をめざしている。また、入居者の自発的な要望に対しても、それが実現されるような介添えをし、不平不満のない福祉施設の運営にあつたている。	理念や理想については福祉の目的に叶ったものといえる。長文の理念はやや職員にとって記憶しにくい面もあるようである。基本から離脱しない範囲で要約され、暗誦に適した理念文もいのように思われる。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、回覧版等や地域推進会議等の情報提供などにより夏祭りや桜まつりなどの行事への参加や1回/月の廃品回収などに協力しています又中学生の職場体験実習の受け入れもしています	市社協、福祉協議会、なにわ生協からのボランティアの受け入れや、地元高倉中学の生徒との交流、地元の季節行事の見物などして、地域との関わりを持ち相互理解を深めている。	これからもホームと地元が互いに深い関わりあいを持ち、共存していけるような関係に努めて頂きたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	生協組織活動での一環として、班会活動などを通じて組合員さんからの情報を基に相談ののったり法人発行の通信に定期的に情報発信しています		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な開催が定着しており、地域包括支援センター職員のアドバイスや町会の方やご家族様のご意見を十分に拝聴しサービスの向上にいかしている	2ヶ月毎の推進会議には包括支援センターや町会長、婦人部長の参加を始めボランティアの方の参加もある。会議では小さな事も議題にし、介護の向上にも役立てられている。議事録は家族にも郵送されている。	会議には認知症の専門家の参加も考えられたい。新しい角度からの意見は、介護のスキルアップにも繋がるものと思われる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	介護事故の報告や生活保護受給者受け入れのご相談等適宜報告相談を行っている	事業所は市町村に対して、生活保護の問題、介護についての問題、家族との問題、など常に積極的に相談するようにしている。市の判断が、事業所と家族との見解の相違からくる誤解を未然に防いだ事もある。	事業所と市は密度の高い関係にあると言える。この関係を維持しホームの福祉事業に役立てて頂きたい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないという前提で、ケース毎にカンファレンスを行い本人やご家族のご意向も考慮しながら職員間で話し合いを重ね、転倒や転落などのリスクを考えながらケアをすすめている	身体拘束はしない。ミトン手袋や繋ぎ服も必要はない。ベッドの高さを低めに調整し、寝起きしやすいうようにして柵を最少限にする。床にセンサーを設置し、可能な限り見守り支援に徹する。少人数の為、玄関の施錠は必要なく、職員の見守りで安全は確保されている。	事業所内で入居者は自由な生活をしている。拘束の不愉快さを認識している事業所の姿勢に賛同したい。これからも、この方針を堅持して頂きたい。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての冊子を職員に配布し、具体的に提示しながら、職員のケアの中で、不適切な言動などがあればその場で伝える様になっている 職員の体調等にも配慮している		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護に関する事柄について学ぶ機会は不十分であるが、昨年末短期入所された身よりの無い方のケースで具体的に学ぶ機会があった</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約に関しては、十分な時間を取り体験入所の制度利用などの説明も行い不安の解消に努めている又契約に際しては、読み合わせをしながら理解、納得を得ている</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご本人の困りごとに関しては生活の場面でその都度確認している ご家族の面会時や必要があればメールなどでご様子を報告し相談している</p>	<p>家族の意見は、主に事業所訪問時に話し合われ、職員はそれを職員会議で提起し、運営に反映するように努力している。</p>	<p>事業所と家族との関係は、互いにフランクに話せる立場にありこの利点は評価できる。この状態を堅持していく事を望みたい。</p>
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>1回/年の職員の契約更新時での面談での聞き取りを行っている。日常的にも申し送りの時間やケアの場面で意見を聞くようにしている</p>	<p>職員の要望や意見は年一回の契約更新時で話し合いされ、反映されている。また、平素の勤務での申し送り、職員のアンケートも参考にしている。</p>	<p>これからも、平素における職員の意見も重要視され、よりよいホーム作りに邁進されて頂きたい。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>毎月の事業所報告書や管理者会議で職員の良いケアや困りごとなどを報告している 職員の進退などもすぐに報告し介護部長も交えて面談などを行い改善に努めている</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者が職員個々人の力量までは把握している訳ではないが、介護部長などと連携し把握に努めており、通信教育の推奨や法人内外の研修への参加を促し、職場でのジョブトレーニングをすすめるよう支援している</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>医療生協での学習会や交流会への参加を呼びかけたり、法人内での研修会に参加できるようにしている 又、都島区内のGHや小規模多機能ホームなどの連絡会へ参加し連携を図っている</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所時の面談には、複数の職員で利用者の居住地へ訪問し、リロケーションダメージにより不安が増幅しない様に、関係づくりを密にし、本人の生活歴やADLなど細かいアセスメントし、その情報を他の職員と共有する事で入所後のケアの統一を図っている</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所前面談では、出来るだけご自宅に伺いご本人の生活環境を把握し、十分な話し合いをすすめながら情報収集を行い、ご家族の不安や要望にも耳を傾け、ホームで出来る事を的確に伝えながら関係づくりを行っている</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>サービス導入前には十分な面談を行いご本人の真のニーズを探り、必要があれば法人内の他のサービスを紹介したりしながら今のご本人が必要なサービスが選択できるように情報提供している</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>ホームでの生活は、本人主体の場であり、職員は、その生活が円滑に運営される様に支援しながら時にはご本人の力も借りながら運営している</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族の面会時や定期的なカンファレンスなどの機会を使ってご自宅でのご本人の有り様など生活力を聞き取りながら、ホームでの生活のしやすさを探っている</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>面会時間などは特に設定しておらず、例え食事時間であっても同席戴きいつでも来て頂けるようにしている、地域の行事や外出への参加の呼びかけも行っており、常に関係づくりが出来るように情報発信している</p>	<p>家族や職員が馴染みの人であるという入居者が殆どであり、出来る限り家族の訪問を促すようにしている。記憶が希薄になっている方には、職員が馴染みの人になってあげ、入居者に安らぎを与えている。</p>	<p>家族が何時でも訪問しやすい事業所として、これからも入居者の為に温かな支援をお願いしたい。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>リビングでの座席に配慮し、時にコミュニケーションの不十分さから来るトラブルに関しても個々人の感情の発露と捕え職員が補いながら良好な関係づくりに努めている</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>長期入院による退所であっても時に面会に伺ったり、電話連絡などを行い、関係を保っているご本人のご逝去に際してもご連絡頂き参列させて戴いている</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしをsiru					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的にご本人の言葉に耳を傾け聞き取るようにしている。理解しづらい時はしぐさや表情から読み取るようにしている	自分の希望や要望が表現しにくい入居者には、当人の身になって感じ、考え、出来る限りの意向を汲む支援に努めている。一人ひとりの個性の違いについての対応は職員同士でよく話し合われている。	日によって違う入居者の感情についても、困難な対応も強いられる事もあると考えられるが、その時も職員間でよく話し合われ、これからも理念に謳われた介助支援をお願いしたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	ご家族様からの情報収集で生活歴の把握や性格などを聞いている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で、ご本人の言動に注視し、いつもと違う事に気づいた時には、職員間で情報を共有し心身の状態把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	10分カンファの機会やご家族様との担当者会議などの機会を使って、ご意見を伺い、介護計画に反映させている	月1～2回行われる当ホームの10分間カンファは、介護計画を作成する時の軸にもなっている。入居者の健康状態や生活支援の受け取り方も数カ月で変化していく事もあり、6ヵ月計画の作成が最も適していると判断され実践されている。	状況の変化をいち早く対応できる体制にあるのは評価したい。入居者の為の介護支援に即応できるこの態勢を堅持されたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護日誌や管理日誌の申し送り事項に気づき等を記録し職員間で共有している。又職員間での連絡メモにも工夫や気づきを記載し皆で話し合い、それを介護計画に反映している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内でのサービスだけでなく、必要があれば、安心サポートやボランティアの利用など柔軟な支援に努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム全体として、商業施設の利用や公園などの地域資源の利用をすすめている。個別にはまだ不十分である		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所に当たり今までのかかりつけ医を継続していただく事は可能と伝えているが、概ねホーム主治医へ移行されている	家族や入居者が希望すれば従来のかかりつけ医の診察もある。現在は当ホームを運営する同じ法人のコープ都島クリニックが月一回、入居者全員を診察している。歯科については毎週一回、野田阪神クリニックの診察がある。	特定の専門医については、かかりつけ医が必要な場合も考えられる。ご家族を交えた話し合いをこれからもお願いしたい。

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>1回/週の訪問看護訪問時にはご利用者様の不安な事を相談したり又状態急変時には、適宜法人内クリニックへ連絡し指示を受けるようにしている</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時には、必ず職員が付き添い容態説明を行っている、又介護サマリーの提供を行い、主治医カンファの折にはご家族様と同席させて戴き情報収集を行っている 又 入院が長期化する場合は、MSWと今後の方向性について話し合いを行っている</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時には、看取り指針に基づいた説明を行い同意を得ている 実際にそうした状況になった時は、各方面より情報収集を行い、看取りの為の計画作成し、ホームでのケアのあり方を示す事としている</p>	<p>家族には入居時に当事業所独自の看取り指針についての説明をしている。最終的には重度化した時点で、再度家族との間で十分な話し合いが行われ、その時点の状況で、ホームで看取るか、どうかが決められる。現在の時点では看取りの全ては、搬送先の病院で行われている。</p>	<p>事業所は可能な範囲内での支援と介助を説明している。家族との間で解釈の相違がないように丁寧に説明している。この方針を守って頂きたい。</p>
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急マニュアルを作り、手順を示しているが、応急手当や初期対応の訓練は不十分であり、実践力には不安がある</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>避難訓練は、実施しているが、夜間想定はできておらず、不十分である H28年度より災害対策会議を1回/月外部事業者を招いて行っており、H29年度は、法人のマニュアルを職員へ周知して行く事としている</p>	<p>避難訓練は自主的なものであるが、消防署には事前に連絡し協力を求めている。訓練は台所から出火という想定で入居者を玄関まで誘導する。各居室にはスプリンクラーが設置され、台所には消火器が設置されている。地震対策については、現在マニュアル作成中である。</p>	<p>現在、避難訓練は年1回であるが年2回にされたい。消火器は台所以外にももう一台設置されたい。避難訓練には消防署職員の専門家としての意見を参考にされ、事業所としての研究課題とされるよう望まれます。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のケアでの呼びかけや言葉かけでの不適切な場面があれば、職員間でお互いに注意するようにしている	入居者にはどのように接していくべきかは常に職員同士で話し合われている。入居者には「さん」付けをして人格を守っている。特に排泄時の介助には、入居者は人生の先輩者である、という強い認識を持っている。	職員の入居者に対する真摯な態度は評価したい。これからも、この節度と愛情ある支援をお願いしたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活のあらゆる場面で、利用者の意思を確認出来る様な問いかけを行い意志を確認している。言葉で表現出来ない場合には、表情やしぐさで意向を汲み取る様にしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは大まかに決まっているが、ご利用者様のその日の状況に合わせて臥床する時間を作ったり、食事時間なども柔軟に対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	手持ちの衣類の中から選んで頂ける様に問いかけたり、嗜好品や髪形なども画一的にならない様ご本人らしさが損なわれない様に配慮している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味噌汁の具材切や盛り付け等を行ったり、食器拭き等日常的に食事と関わっている。又お誕生日ケーキ作りやたこ焼き作り等行事食も皆で手づくりしている	平日の昼・夕の給食は同法人経営のほくほく配食センターに依頼している。日曜は給食会社ニコニコに依頼している。平日の朝食は職員が調理している。入居者の中には簡単な盛り付けや、食器拭きなどの手伝いをする人もいて、生き甲斐にもなっている。	職員と入居者が一緒に食事ができれば、より一体感が深められ入居者の生活満足感も増すものと思われる。一考されてみてはどうだろうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	食事量や水分量は一日を通じて記録し管理している。平日昼夕は法人内の配食センターを利用しており、管理栄養士が作成した献立を召し上がっている。食事形態なども摂取状態に合わせて提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。1回/週の歯科往診時には、歯科医師や歯科衛生士による口腔ケアを実施し、誤嚥性肺炎の予防と口腔内の清潔を保っている。時には口腔ケアの仕方や嚥下についてのアドバイスも受けている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄表で、排泄状況を管理している。安易にオムツ装着をせず、終日を通してトイレでの排泄を尊重している。定時誘導や本人の意思表示を確認し誘導しており排泄能力の低下を防いでいる	排泄表を作成し一人ひとりの状況を正確に把握している。職員は可能な限り見守りと誘導の支援を行うようにしている。また互いに連絡を密にして排泄支援のミスをおこさないようにしている。	日々の入居生活の中では重要な支援であり、これからも温かな目で、優しい介助をお願いしたい。また、可能な限り自立支援の方法も模索されて頂きたい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表で排便チェックを行い、緩下剤を併用しながら十分な水分摂取を促し、野菜や果物・ヨーグルト等を摂取して頂いて自然な排便を心がけている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	出来るだけ入浴の希望に添えるように配慮している。以前はご家族の協力を得て夕食後入浴して頂いていた。入浴拒否のあるご利用者様に対しても、無理強いする事なく気分よく入浴できるように配慮している	一人につき週2～3回入浴している。湯の入れ替えや洗髪は毎回行われている。入浴を嫌がる入居者は、時間をずらして誘っている。肌着はその都度、着替えている。職員は入居者によく話し掛けをして、楽しい入浴になるように心掛けている。	入浴剤の投入やバックミージックなども楽しい工夫の一つと思われる。一考されて頂きたい。

46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	画一的な寝具は使用せず、ご自宅から持参頂いた寝具を使用している 灯りや室温に関してもご本人の意向を確認して対応している		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が確認出来る様に各利用者の最新の薬ファイルを作成している 服薬に関しては、個人の薬BOXで管理しており、誤薬を防いでいる 降圧剤や緩下剤の服用に関しては、ルールを決めており、職員同士で確認するようにしている		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は、ご利用者の好みや得意な事を把握しており、時々楽しみを提供できるように工夫している		
49 18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	1人ひとりの希望に即した外出支援は出来ない 外気浴や屋外でのおやつ 年数回の外出等ご家族様とも一緒にかけられるように支援している	入居者一人ひとりを、日を変えて近隣の散歩に出かけている。時には近くのスーパーベルファまでおやつを買いに行く事もある。現在の時点では、各入居者について、どの程度の外出を希望しているかは把握していないようである。	外出支援は精神にも良い影響があると考えられる。出来るだけ散歩などの回数を増やすようにする事が望まれます。
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ事の安心感を理解しトラブルの無い様に配慮しながら持ってもらっている お小遣い程度の金額を預り、管理者が出納帳で管理し、毎月ご家族様に報告している		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話はいつでも使用できるようにしている 手紙のやり取りは難しが、ご家族様には、適宜写真を送付したりして報告している		
52 19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	灯りや室温にも配慮し、混乱の無い様にしている 花や塗り絵・写真などを飾り、暖かい雰囲気づくりをしている	団欒を思わせるような温かい共用空間は、入居者にとって家庭そのものである。適度な照明とほのよい隣人との距離。入居者と一緒に作った作品が、近親感を醸し出している。職員がよく話し掛けをし、入居者の心も和んでいる。共用空間には不快な物はなく、入居者は一日の殆どをここで過ごしている。	共用空間にある棚にはいろいろな物が置いてあるが、願わくばもう少し整理されたい。入居者は気にされていない様子だったが、よりよい空間作りの一策とも思われる。
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前にはソファを置き死角になるスペースを確保している 食事の座席にも配慮している 行動を制限したりせず、ご本人が自由に行動出来るように工夫している		
54 20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居に際しては、出来るだけご自宅で使い慣れた物を持って来て頂くようにしており、家族写真や日めくりカレンダー等馴染みの物を置くようにしている	各人の居室は従来の生活の一部であるタンス・置物・服などが設置され生活歴を踏まえた環境作りになっている。衛生面ではシーツ交換は週に一度、汚れた場合はその都度交換。部屋の掃除も適宜行われている。	より楽しい居室作りの為に家族とも相談され、本人の好みにあった娯楽的な物も考えられてはどうか。その人に合った楽しい居室作りの工夫もお願いしたい。
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札を掲げ、扉は色分けされており、ご自分の居室と解るようにしている トイレや浴室などは表示し出来るだけ、混乱の無い様にしている		

V アウトカム項目		
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない